

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	19001004	研究期間	平成19年度～平成23年度
研究課題名	マルチモーダル感覚情報の時空間統合		
研究代表者名 (所属・職)	鈴木 陽一（東北大学・電気通信研究所・教授）		

【平成22年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
(評価意見)		
<p>本研究では、マルチモーダル感覚情報の時空間統合を目指して、人の感覚情報の処理に関し、様々な実験を行っている。これまでに、視覚・聴覚・触覚の相互作用や言語認知との関係などについて興味深い結果を得ており、目標の達成に向け着実に進展していると評価できる。</p> <p>残された研究期間においては、感覚情報の統合に関し、より具体的で定量的なモデルを確立し、それに基づく迫真性・臨場感・自然性などの明確な定義と定量化が行えることを期待する。さらに、最新の脳科学の研究成果をも取り入れた感覚情報統合の体系的理論の構築と、マルチモーダル感覚情報提示システム設計論の確立、及びその産業応用への貢献を期待したい。</p>		

【平成24年度 検証結果】

検証結果	<p>本研究は、時空間マーキングに基づくマルチモーダル感覚情報統合という独自の視点から、視覚、聴覚といった複数のモダリティーにおける人の感覚情報処理に関し、様々な心理実験を行ってその統合過程を明らかにし、知覚モデルを構築した上で、高度かつ使い易いマルチメディア時空間提示システムの定量的な設計指針の構築を目指すものである。聴覚誘導性視運動知覚、聴覚随伴性視覚運動残効などを世界に先駆けて発見するなど、視覚-聴覚を中心とした感覚情報統合については、顕著な研究成果を挙げている。また、情報統合の発達過程に関しても、新しい知見を得ている。なお、音声認知に関しては、脳活動の重要な部分でもあり、今後の発展が期待される。一方、マルチメディアシステムの設計指針に関しては、少し、具体性に乏しく、効果の程度については、更に研究が必要であり、今後の研究成果が待たれる。</p>
A	